



ともにほほえむ

# ほほえみ

中野 キヨ子様 (92歳) やんわりとした 控え目なお人柄で、何でもできる頼りになる存在です。

## 平成28年は『自ら考え、皆で深め、社会に発信する』年に！

副会長 コッシュ石井 美千代



早いもので、平成27年も数日を残すばかりとなりました。会員の皆様におかれましては、利用者のより良い生活を支えるべく、今年も一年ご尽力なされたことと思います。また、当会の活動にご理解とご協力をいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。

さて、昭和62年(1987年)に介護福祉士という国家資格が誕生してから28年余、平成5年(1993年)に神奈川県介護福祉士会が設立されてから23年が経ちます。この間、私たちは介護福祉の専門職として自らの専門性について考え、確立に努めてきました。しかしながら、介護福祉士は国家資格とは言え名称独占であり業務独占ではないこと、介護という行為自体は家族や資格を持たない人でもできること、介護は個別性が高く効果が評価しにくいことなどからも、その専門性について明確にすることは容易ではありませんでした。

そんな中、平成26年に日本介護福祉士会が、介護福祉士の専門性とは「利用者の生活をより良い方向へ変化させるために、根拠に基づいた介護の実践とともに環境を整備することができること」と明文化しました。具体的には、

①介護過程の展開による根拠に基

づいた介護実践…利用者の自立に向けた介護過程を展開し、根拠に基づいた質の高い介護を実践する。

②教育・指導…自ら介護等に関する知識及び技能の向上に努めるだけでなく、自立支援に向けた介護技術等、具体的な指導・助言を行う。

③環境整備・多職種連携…利用者の心身その他の状況に応じて、福祉サービス等が総合的かつ適切に提供されるよう、物的・人的・制度的等、様々な環境整備を行うとともに、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。

(日本介護福祉士会ホームページ参照)

私たちは、介護福祉の専門家です。介護という仕事を通して、利用者やその家族が少しでも幸せを感じ、納得のいく人生を送ることができるよう支えていくことが大切なのではないでしょうか。

そのためには、物事や言葉を表面的にとらえ「わかったつもり」になるのではなく、情報を丁寧に集め、思いを聴き、真のニーズを考える必要があります。根拠に基づいた介護を実践することは介護福祉士の専門性ですが、同時に、この専門性を充分に発揮し、利用

者の幸せを支えるためには、根拠を導き出す過程や根拠に基づく介護を実践する過程に、気づきやひらめきとも言える感性が必要だとも考えます。

これからは、介護福祉士の専門性や課題について自らが考えることに留まらず、議論し掘り下げ、社会に発信していく。そして、未来につなげていくことが必要ではないでしょうか。

明平成28年は、10年に1度担当が回ってくる(公社)日本介護福祉士会「関東・甲信越ブロック研修会」を11月12日(土)に横浜市中区山下町「ワークピア横浜」にて開催予定です。

会員の皆様と「自ら考え、皆で深め、社会に発信する」ための更なる一歩を踏み出したいと思えます。どうぞ会の活動にご参加ください。そして、ともにたくさん語り合いましょ！

明年が皆様にとって、健やかで愛と希望に満ちた年になりますようお祈り申し上げます。

## 第22回 公益社団法人 日本介護福祉士会 関東・甲信越ブロック研修会 in 長野 「介護福祉士の仕事の魅力」～笑顔 輝く 介護を紡ぐ～

平成27年10月10日(土)、関東・甲信越ブロック研修会が晴天に恵まれ、紅葉のはじまった美しい軽井沢(長野県)にて開催され、本会から46名が参加した。明28年は神奈川県が担当県でもあり、バスをチャーターしての参加となった。基調講演では、厚生労働省老健局振興課課長補佐 川部勝一氏の「地域ケアシステムの推進と地域支援事業について」の説明と、介護福祉士がこれからの社会において担う生活支援・介護予防サービスの重要性についての説明があった。引き続き地元出身の二胡奏者、高山賢人氏による優しい音色の演奏があり、日頃の忙しさを忘れ、豊かな時間をいただいた。午後は3分科会に分かれ研修が行われた。第1分科会では本会の川原理事が「キャリアアップ」について研究発表をした。最後の記念講演では、信州大学大学院医学系研究科 能勢博教授による「高齢者の熱中症予防について」～運動と牛乳で暑さに強い体作り～と題して様々な取り組みや、事例を挙げて社会問題となっている事柄が改善できるという内容の濃い研修となった。

(広報委員 齋藤美貴)

### 事例 発表

## 「志」なくしてキャリアアップならず ～わが施設のキャリアアップの事例から～

川原 俊一郎

医療法人社団ビーエムエー 介護老人保健施設ソフィア横浜



### I 研究目的

近年、私が所属する介護老人保健施設において、在宅復帰率は低く、介護報酬の加算取得は厳しい状況にあったが、職員の配置や資格等による加算の取得は実行可能であると考え、そのための取組は、職員個々の知識や技術の向上に有効であり、介護サービスの質の向上を計るうえでも重要であると考え、キャリアアップの実践を通して、当施設職員の知識、技術の向上や意識の変化を計ることを目的とする。期間は2013年6月から2015年5月とし、対象は介護福祉士2名(A、B)及び介護福祉士を目指す職員2名(C、D)。

### II 実践及び結果

2013年6月より、職員の面談を行った。そこで半年後の目標を定め、達成に向けてのプロセスの確認を行った。介護福祉士資格を保有する者に関しては、会議等の開催、職員教育等の職場内で課せられる具体的な役割に併せた個々の目標を、介護福祉士を目指す者に関しては介護福祉士の取得に向けた目標設定及び、日常業務での個々の目標設定をした。その後、半年ごとに設定した目標に対する評価、課題分析、及び次期に向けての目標設定を繰り返し行った。面談時においては、できない理由ではなく、どうすれば達成できるかを考えた。2013年12月からはキャリア段位制度の自己評価票を使用し、各人にて自己評価を行い、アセッサーによる評価を行うことで、実践スキルの評価も行った。

結果、介護福祉士Aは当初副主任であり、主任の着任に固辞を繰り返すも、在籍年数が最長であり2014年4月辞令交付によりフロア主任に着任。その後実践力の向上や職員

からの相談が増えるなど、職員との関係性の向上が見られた。外部の研修にも積極的に参

加し、自己成長に努め、施設の中核として従事したが、精神的負担を理由に転職となる。

介護福祉士のBは2013年12月、一般職より推薦を経てフロア副主任となり、会議開催をはじめ、各種業務の実践力向上が見られ、日頃の指導も分かりやすいとの声も聞かれた。一方で当施設にとどまらずB個人は将来的には管理者を目指すという目標があげられた。現在は他事業所の管理者をしている。

一般職C、Dは利用者との関わり方、介護技術等の実践力の向上とともに後輩への積極的な助言、先輩への質問場面も増え、また、研修参加など自己啓発意欲の増進が見られた。また各々2014年10月に開催された横浜市介護老人保健施設研究発表大会に当施設より自主的に立候補し、演題制作、発表をするとともに、Cは2014年、Dは2015年に介護福祉士資格を取得している。Cは外部研修等を重ねる中で、将来的な不安や、新たな環境での経験を求め、転職した。

4者共通の事項として、評価票を活用し、求められるスキルが明確になることでそれぞれシート内のチェック項目において実践場面での評価の向上が見られた。また、施設内の研修への全参加、自主勉強会の開催、施設外の研修等への参加

実績も増え、自主的に自己研鑽する姿勢が見られた。

内外の研修を受講、報告のみでなく、振り返りのための職場内研修を適時開催し、自分自身の学びや知識を内部職員に伝達する機会を設定することで、報告者自身がどれだけ理解できているのかを振り返る機会を設けた。この取り組みの経過の中でも施設内研修の開催要望や参加者の増加(2013平均2.0人/回・2014平均9.0人/回)、特に施設外研修の情報提供の要望や参加者の増加(2013平均1.2人/月・2014平均10.0人/月)と、職員個々の学びへの意欲に明らかに変化が見られた。「自分だけの目標を持たた」、「目標が明確だと頑張れる」、「決められたステップアップより自分で決めたい」、「わかるよりできるになりたい」、「学びたいものを学べる機会は嬉しい」「仲間がいるから頑張れる」などと前向きな発言が多く聞かれるようになった。

### Ⅲ 考察と結論

振り返ると、以前は職務として介護を行い、利用者本位という言葉の中で自分たちなりに業務を行っていたが、期

間設定した目標と、プロセスを具体的にすることで、日常業務においても個々が目標に向けた行動を遂行しやすい状況となり、自発的な行動が増えた。日常的な場面でも、評価票を通じて自身の技術向上が明確になり自信を持った様子や、研究発表参加など、自分達の仕事に誇りを持った言動が目立ち、利用者本位の介護をするための学びや相談の機会を求めていることがわかった。また、日常的な業務からのみでは知識、技術のスキルアップを達成をすることが難しいこともあったと感じた。各人が学びを職場で活かし、還元することはとても重要なことであり、個々の目標が明確になること、自身が承認されることによる意欲向上の効果にもなる反面、実状に対する不安を抱く要因ともなること、他事業所での学びの希望にもつながることもあったと感じた。介護職としてのキャリアアップを考えた場合、資格の取得や経験数、役職も重要であるが、個人の想いなくしてスキルアップはなく、客観的な名目のみでなく、各々の「目標」には自身の「志」がとても重要であると改めて感じた。

## 関東・甲信越ブロック研修会分科会に参加して

### 第1分科会

#### テーマ「育成」

横浜北支部 樽見 絹代

第一分科会では、『介護人材難における我が施設の人財育成』(千葉県)、『「志」なくしてキャリアアップならず』(神奈川県)、『介護人材の育成』(東京都)の3つの事例が発表されました。人財育成の取り組みは、「指導」という一方的な方法ではなく、「共に働く仲間・共に成長する」といった視点を持ち、職員が一丸となって目標に向かっていく様子が伝わってきました。介護の現場では、チームケアが重要であり、上司、同僚などに限らずチーム内外の仲間の理解や支えが重要である事を再認識しました。神奈川県は川原俊一郎理事が発表しました。その中の『各々の目標には自身の「志」が最も重要である』という言葉に強く共感しました。学びへの意欲や「志」を持てるような人材育成を目指して努力していきたいと思

### 第2分科会

#### テーマ「実践」

川崎支部 田島 彩子

第2分科会は、「回復期リハビリテーション病棟における介護福祉士の存在」(茨城県)、「私たちが考える居場所づくりとは」(新潟県)、「看取り介護の実践と課題」(山梨県)という題名で、回復期リハビリ、障がい者デイサービス、「看取り実施率90%以上」という取り組みをされている特別養護老人ホーム、様々な場所で活躍する介護福祉士の実践報告を聴講しました。

どの報告においても、医療職など様々な職種が入り混じる現場で、介護福祉士が「介護のプロ」として頼りにされ、誇りと責任をもって協働している姿を感じることができました。介護職の弱みや悩みとして、人手不足や役割の不明確さ、医療面の知識が不足しているという課題も挙げられていましたが、介護職の強みである「専門性(例えば生活の視点、介護技術など)」を生かして、発表者の先輩方のように「認められる介護福祉士」目指して仕事をしていきたいと思いました。

### 第3分科会

#### テーマ「連携」

県央支部 平野 佑子

①「介護支援専門員からみた介護福祉士との連携と協働」(栃木県)は、外部の方が生活のことはほかの業種ではなく介護福祉士と直接話がしたいと言う介護福祉士への専門性への期待を感じさせる内容でした。②「認知症にやさしい地域づくりネットワーク～命の宝探し～」(群馬県)は、地域の行方不明の認知症の方への関わりで、企業や登録してくださる個人の方へのメールでの情報提供等、地域ネットワークを活用し地域で認知症の方を支える関わりを進めていました。③「患者様利用者様にとって看護も介護も関係ない!!」(埼玉県)は、多職種との連携では、医療・介護の其々の専門性を持って話し合い、福祉のあり方を共有されていました。

3事業所の発表を聞き、共通して言えることは介護福祉士の専門性の高さが地域の支えになっていること、課題に対して真摯に丁寧に対応していることです。この発表を聞き身が引き締まる思いと共に、自分自身も介護福祉士という国家資格を持っているからには、地域の方に「介護福祉士がいてよかった」と思われる関わりや活動をしていきたいと思

# 11月11日は「介護の日」 ～いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう～

## 第8回「介護の日」記念 介護セミナー2015 開催



今年度も広報委員会を中心に26名のスタッフで11月5日(木)10時30分～15時まで、横浜新都市プラザ(横浜そごう前イベント広場)において介護セミナーを開催しました。季節がら急な冷え込みなどを心配しましたが、天候に恵まれ暖かな1日となりました。

セミナーでは、「介護相談」、本人の力を活かした持ち上げない「介護技術講習」、認知症の人の介護をテーマとした「介護劇」、いつでもどこでも簡単にできる「介護予防体操」、介護食等の試供品を含む目で見てわかりやすいパンフレット等の介護に関する情報提供を行いました。また、毎年恒例の「介護の日ひろめ隊」も出動し、かながわ感動介護大賞表彰式や介護福祉士会主催各種研修会の案内を入れた介護の日PRのクリアファイル(日本介護福祉士会、東洋羽毛工業株式会社協賛)1,000部の手渡しとセミナーへの参加の呼びかけを行いました。

新都市プラザでの開催は2回目ですが、参加された人たちは昨年比で高齢の方も多く、みなさん自分のこととして介護や介護予防に関心を持っていただく事ができました。(広報委員 小野真弓)



ご相談をお受けします



さあ、みなさん、一緒に



介護の日ひろめ隊 出動中

セミナー当日は福祉新聞の取材があり、11月16日の福祉新聞に記事が掲載されました。全文をご紹介します。

「介護の日をご存知ですか」「介護相談をやっています」。

神奈川県介護福祉士会は5日、介護の日(11月11日)に合わせたイベントをJR横浜駅東口のそごう横浜店前広場で開き、行きかう人たちに呼び掛けた。

同会では参加型イベントにしようと、集まった人たちと介護予防体操をしたり、車いすからベッドに移乗する際の「持ち上げない介護」の技術講習を行ったりした。

またスタッフによる介護劇「認知症って何?」では、認知症の祖母が食事を終えたのに食事はまだかと嫁に何度も聞く場面を演じ、認知症と物忘れの違い、特徴的な症状、対応のポイントなどを解説した。

参加した50代の女性は「とても勉強になった。こうしたイベントをもっと開いてほしい」と話した。

厚生労働省は、2025年に介護人材が約38万人不足すると推計して

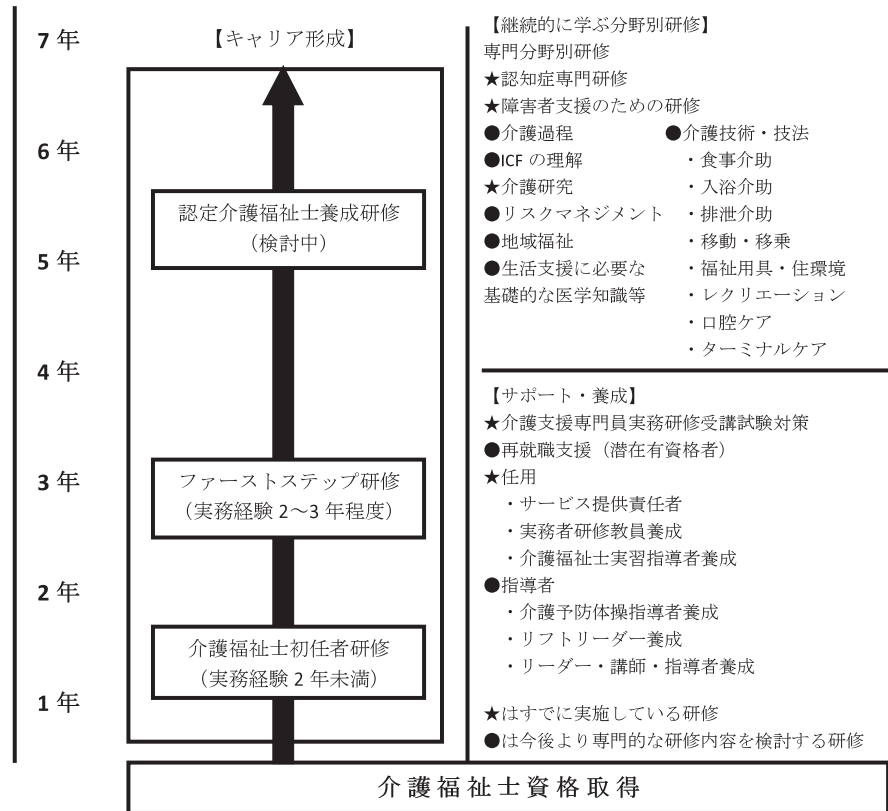
いる。同会の野上薫子会長は「処遇を含めて介護が魅力ある仕事にならないとすそ野は広がらない。そのために介護福祉士が専門性を示し、一般の人にも介護のことを知ってもらいたい」と言う。



## 認定介護福祉士養成研修（平成 28 年度開始予定）受講に向けて

利用者ニーズの多様化や高度化に対応する質の高い介護の実践、介護職の指導・教育、他職種間の連携強化など幅広い役割が私たち介護福祉士には求められています。介護福祉士には資質向上の責務が課せられていることから、介護福祉士初任者研修やファーストステップ研修を受講し、ともにキャリアアップを目指しましょう。

公益社団法人 日本介護福祉士会 生涯研修体系図（平成 27 年 8 月）



(日本介護福祉士会ホームページより)

お久しぶりです！

元副会長 炭竈 美枝

4年半のアメリカでの孫育てを経て帰国しました。医療や福祉では、ある意味日本の方が充実しているように感じました。又、アメリカ社会では離婚も珍しくないのですが、家族との生活を大切にする国です。社会人（主婦も）が大学の単位をとって、新しい職業に挑戦する人も身近にいました。

先日、在米の娘から「1/4の奇跡」という本を紹介されました。この本では、『マリヤが多く発生する地域では、ある一定の割合で、伝染病に強い突然変異遺伝子を持つ人がいる。その「強者の遺伝子」を持つ人が生まれるとき、その兄弟姉妹に1/4の確立で重い障害を持つ人が現われる。病気や障害を引き受けた人がいるからこそ、健康な人が存在する。逆説的に言えば、嘆き悲しむ病気や障害を持つ人々の存在意義は「1/4の奇跡」にある。』このような考え方を国内外に広く伝え、病気や障害をもつ子供達との交流のドキュメントを伝えています。

アメリカで自閉症児教育の教師をしている娘は「考え方とサクセスストーリーに感動し、エネルギーをもらった。しかし、重症の自閉症児と関わり、日々悩む母親達の苦勞を見ていると、現実の厳しさをひしひしと…」と言っています。皆さんは現場でどのように感じ、取り組んでいらっしゃるのでしょうか？

## ……はじめまして 新入会員です! ……

今年度、83名の新入会員を迎えました。各支部より1名ずつ、入会の動機や今後の抱負などについて文章をお寄せいただきましたので、ご紹介します。(広報委員が無作為に依頼しました。)

### 横浜北支部

長谷川 和美



介護福祉士として、現場では様々な問題点やヘルパー定着や技術向上、利用者様はもちろん、スタッフのメンタルケアなど、本来あるべき職務以上の資質が求められていると思います。また、今後更なる利用者の増加は、困難事例の多様化が避けられず、常に問題への対処が求められます。

入会にあたり、業務内外の問題点を共有し、解決事例を参考に現場で役立てていければと考えております。

人材管理、人材育成に於いても、離職率の高い現状の中で現場を統率する立場としての魅力も備えていかなければ、人材の定着にはつながっていかないと思います。

「介護職の社会的向上」をめざし、今後、介護福祉士会での研修へ積極的に参加していきたいと思っております。

### 横浜南支部

佐藤 緑子



神奈川に引っ越しして感じたことは、以前住んでいた県では若者が少なく、失業率も高いのですが、福祉関係の施設や事業所だけは数多くあったのです。地元での生活維持の為、介護職をやる人も数多くいました。もう少し人手が必要といった状況です。引っ越ししてみても需要の高さは、介護現場の全ての面で底上げをやってきていたんだと気づかされるのが沢山ありました。現場は、三つの「者」が必要と、ある本の中に見つけました。「若者」「よそ者」「バカ者」、納得です。「よそ者」がこれからお世話になります。

### 川崎支部

福田 るみ



私が神奈川県介護福祉士会に入会した理由は、新しい知識や技術を取り入れてスキルアップをしたいと思ったからです。

現在、特別養護老人ホームで働いていますが、利用者の中には知的障がいや精神障がいを持った方が入所され、介護の技術はもちろん、障がいに関する多様な知識や関わり方等が必要であると感じています。

また、働いている中で、ご本人やご家族への対応として「本当にこれで良かったのか、もっと他にできることがあったのではないか」と日々考えさせられると同時に自分の力不足も実感しています。

研修などに参加して新しい知識や技術を習得し、利用者の方に笑顔で安心して過ごしていただけるような介護福祉士になりたいと思っています。

### 横須賀・三浦支部

星 智子



介護福祉士会と出会ったきっかけは、毎月手元に届く「おはよう21」(発行 中央法規出版)でした。

入会を決めたのは、私自身、福祉の仕事に就き10年以上経ちますが、知識不足なため「多くの研修に参加したい」という気持ちからでした。

また、福祉の仕事をしていくうえで、他施設の方々と交流を深めたいという気持ちがあり、意見交換会などがあれば参加し、どのようにしたら、施設を利用している方々が楽しく生活できるか等勉強できたらと思っています。

今後も色々な福祉の資格を取得できるよう、また、私の経験が伝えられるヘルパー講師という私の夢がかなえられるよう、介護福祉士会の皆様のアドバイスをお願いします。

## 県央支部

眞栄田 義市



私は、平成26年に介護福祉士の資格を取得し、職場の上司の勧めですぐに介護福祉士会へ入会しました。定期的に届く介護福祉士の情報や、先輩方が声をかけてくださる活動、勉強会などに参加させていただいたことで、職場だけでは気が付かなかった介護福祉士の活動を知ることができました。また、自分に足りないものが何であるのか、ということにも気づくことができ、もっと知識を増やして、学んでいかなければならないと感じました。

他の会員に負けぬように、これからも研修に参加して、勉強をすることで知識と技術を身に付けていきたいです。また、社会貢献活動にもチャンスがあれば参加したいと思います。

## 湘南東支部

坂本 光隆



本年介護福祉士国家試験に合格しまして、日本介護福祉士会・神奈川県介護福祉士会に入会させていただきました。

入会した目的は介護福祉士としての生涯学習が自己啓発になると考えたところ、介護福祉士会が主催している研修が自分にとって最良だと思ったからです。本年もいくつかの研修を受講をさせていただきましたが、大変良い講師の先生にご指導いただき、満足した1日を送ることができています。また、研修価格が会員価格として一般のかたより安く受けられるのが魅力です。

今後も生涯学習として介護福祉士会主催の講習を受け、介護福祉士としての知識の習得・向上そして自己研鑽に努めたいと思っています。

## 湘南西支部

竹田 美穂



私は、介護福祉士会の研修会に参加するよう職場で勧められ、介護福祉士会に入会しました。私は、「相手が笑顔になれる。安心してもらえるケアワーカー」になりたいと思って仕事をしていますが、日々の業務に追われ、つい忘れてしまうことがあります。逆に相手を不愉快にさせてしまうこともあります。今はそれに気が付いたので、自分自身で忘れないように心がけています。

これからも介護福祉士会の研修会に参加して、介護に関する情報を収集し、「相手が笑顔になれる。安心する」をテーマに、日々精進していこうと思っています。

## 県西支部

尾崎 佳織



私が介護の仕事をしてから10数年が経ちました。今まで介護福祉士会の存在を知ることもなく、友達の勧めで今年度入会しました。現在、特別養護老人ホームで介護職員として働いています。毎日、利用者の笑顔に元気をもらっています。今年、介護福祉士としてステップアップするためのファーストステップ研修に参加しています。

いろいろな研修に参加することにより、他施設の職員との交流や意見交換これからの自分には必要な経験だと思っています。今後、それぞれの利用者ニーズに対応できるような知識・経験・技術を身につけ、たくさんの方に必要とされる介護福祉士を目指したいです。私は、介護の仕事が大好きです。

## 相模原支部

大橋 理人



はじめまして、本年入会した大橋です。入会動機は、昨今の介護情勢の変化はめまぐるしく、現場の情報と独学では対応に限界を感じ、情報をとらえるアンテナを増やして、対応できるようにしたいと思い入会しました。

現場は、いわゆる3Kの職場と言うイメージで、慢性的な人手不足に悩まされています。また、時折、マスクミをにぎわせている、現場で発生した事件や事故にも、心を痛めております。明日は我が身と思い、危機感を持って過ごしています。そんな中、大切なのは、職員同士の連携とコミュニケーション、とりわけ「報、連、相」という、基本的なことを守ってゆくことではないかと感じています。

もう一度原点に立ち返って、自らや周囲を見つめなおして行くことが必要ではないでしょうか。

大変厳しい時期ではありますが、皆様とより良い職場環境について話し合っていけたらと思います。

### ほほえみ塾 暮らしの ヒント

“知りたいこと”“教えたいこと”ためになる情報をお届けします。いつかきっとお役に立つことと思います。必見ですよ。また、皆様方の投稿もお待ちしています。

#### 第22回 関東・甲信越ブロック研修会 in 長野の記念講演 信州大学医学系研究科教授 能勢博先生が推奨する インターバル速歩を始めませんか!

健康増進に効果的といわれるウォーキング。しかし近年の研究で、ウォーキングだけでは筋力・持久力の向上が見込めないことがわかってきました。そこで開発されたのが『インターバル速歩』です。

#### インターバル速歩とは?

筋肉に負荷をかける「さっさか歩き」と負荷の少ない「ゆっくり歩き」を数分間ずつ交互に繰り返すウォーキング法。1日トータル15分という手軽さも長く続けることが出来るポイント。体力のない高齢者や、忙しくて時間がとれないという人にもぴったりのトレーニング方法です。

#### インターバル速歩の効果は?

筋力・持久力を無理なく向上させることができるうえ、骨密度の増加や生活習慣病リスクの改善などにも効果があります。5か月間続ければ、体力が20%向上し、高血圧、高血糖、肥満が20%改善し、医療費が20%削減できるという結果が出ています。

#### インターバル速歩のポイント



- さっさか歩き・ゆっくり歩きを交互に繰り返す。
- 1日速歩を15分、週4日以上を5ヵ月継続。
- 正しい姿勢、大股歩きをキープ。

NPO 法人 熟年体育大学リサーチセンター ホームページより抜粋

### 編集 後記

先日、日本の65歳以上の総人口に占める割合が26.7%と発表された。そして団塊の世代がすべて75歳以上の高齢者になるのが2025年。そういう私もその中の一人。決して高齢者とは思っていない。インターバル速歩を試してみよう。健康は自分の気持ち一つ。今が一番若いと言いつつも聞かせながら、これからも1日を自分らしく過ごしたい。

新年が皆様にとって健やかな年になりますように。(田島)

#### 第23回(公社)日本介護福祉士会 関東・甲信越ブロック研修会 神奈川県で開催!!

日時:2016年11月12日(土)

10時~16時30分

場所:ワークピア横浜

(横浜市中区山下町24-1)

みなとみらい線日本大通り駅徒歩5分)

平成28年度の関東・甲信越ブロック研修会は、神奈川県が当番県です。

みなさんで関ブロを盛り上げましょう。

### 会員募集!

#### 介護福祉士有資格者の みなさんをお誘いください。

#### □本会は…

専門職業人としての社会的地位及び資質の向上と県民の介護福祉の増進に努めます。

#### □会員になると…

各種研修会に会員価格で優先的に受講が可能です。介護技術や介護福祉の最新情報を提供します。

#### □会費…

- 正会員
  - 入会金 2,000円
  - 年会費 5,000円
- 賛助会員
  - 個人年会費 5,000円
  - 団体年会費 30,000円

○正会員の方は同時に日本介護福祉士会へご入会下さい。

○日本介護福祉士会生涯研修制度の認証が受けられます。

○福利厚生各種特典があります。

### ほほえみ 49号

平成27年12月15日

発行 公益社団法人神奈川県介護福祉士会

会長 野上 薫子

横浜市中区海岸通4丁目23番地 マリンビル305

電話 045(319)6687 FAX 045(222)6676

E-mail:info@kanagawa-accw.org

印刷 吾妻印刷株式会社 電話 045(730)5161